



# ぶどうのささやき

27号

2019年  
1月14日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## NPO 法人設立15周年記念特集

### 三浦半島地域における社会連携教育について

新年あけましておめでとうございます。

産業クラスター研究会が、15周年を迎えられたとのこと、お祝い申し上げます。三浦半島の地域経済の活性化に向けて、ご尽力をされてきましたことに、敬意を表します。

今回は、この場をお借りしまして、関東学院大学についてご紹介申し上げます。1884年に、横浜の山手でキリスト教の米国人宣教師が創立した「横浜バプテスト神学校」が、本学の歴史の起点となります。当初は、日本人伝道者の養成を目的にした学校で、5名の学生で産声をあげました。その後、複数回にわたって教育体制や校地を変更しますが、横浜大空襲で大きな被害を受けたことで、終戦後の1946年に、現在の横浜・金沢八景キャンパスに移転。1949年に旧制専門学校から新制大学へと移行し、現在の関東学院大学が誕生します。実学教育に取り組み、学内には実習工場を設けていました。この実習工場が独立し、当時まだ珍しかった大学発ベンチャーの先駆けとして、1969年には北久里浜で「関東化成工業」が設立されます。こうした紆余曲折を経ながら、現在では、11学部に加え、大学院5研究科で教育を進めています。多くの皆様から本学の教育研究に対して、ご理解とご支援を賜りながら、学生数は、約1万1千名と、神奈川県内に本部を置く大学としては、2番目に大きな規模まで発展を遂げました。

三浦半島の付け根に本部を置く本学は、多くの教育資源をこの地域からご提供いただいています。本学では、近年「社会連携教育」を推進し、企業や行政、地域とともに課題解決に挑戦するプログラムを全学的に取り入れています。学生たちには、実際の課題に取り組むことで、教室での学びが「社会の役に立つんだ」という実感を持つ

関東学院大学  
学長 規矩 大義



てほしいと考えています。その実感は、学びに対するモチベーションにつながるはずです。

ただし、大学生がすぐに社会に有益な働きができるかといえば、そうではありません。社会で何かをしようとする際には、学生たちは「今の自分の力では足りない」という気付きもあるはず。その気付きは、足りない部分を補うために、さらに大学での学びを深めようという思いにもつながるはず。その繰り返しこそ、学生が本当の力を身につけるためのプロセスだと考えています。

例えば、三浦市の農園や京急グループとタッグを組んで、経営学部の学生たちが三浦の魅力を発信するマルシェを定期的に開催しています。また、横須賀市にご協力をいただいて、人間共生学部の学生による空き家の改修利活用のプロジェクトや、法学部と人間共生学部の学生たちが市内の遊歩道を整備するプログラムに参加するなど、多彩なプロジェクトを進めています。それぞれの課題や取り組みについて、現場目線で体験的に学修することは、学生たちの学びをより深めていくと確信しています。

今後も、地域社会の未来を支える若い人材を育てていきたいと考えております。また、研究面でも、一昨年に発足した「防災・減災・復興学研究所」などの成果を通じて、近隣地域の発展に資する取り組みを継承してまいります。ぜひ、今後も本学の教育研究に対して、産業クラスター研究会をはじめとした多くの皆様にお力添えをいただければ幸いです。

### クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

## 15周年のご挨拶 ― 回顧と更なる発展

新春を迎えお慶びを申し上げます。

当会は本年1月14日にNPO法人設立15周年を迎えます。5年目までは設立業務を行い、10年目までは基礎固めに終始し、それから本格的支援体制に入りました。これはひとえに行政、研究機関、大学などの関係部署と関係団体のご指導とご鞭撻、ならびに会員各位のご理解とご支援の賜物とお礼申し上げます。

さて、最近では行政、大学、産業界等で活躍した技術系シニアの経験と知識と人脈を活用し、中小企業の法人会員と各種関係団体や市民等を対象に、また、横須賀、三浦周辺地域や神奈川県全域と都内の一部を対象に、支援活動を行えるまでに成長、拡大してきました。

現在、法人会員20社、個人会員31名からなるNPOとなり、事業部門は企業支援、環境事業、海外関連支援の収益3部門と新しい公共、産官学連携、広報の非収益3部門、および事務局からなる組織構成で、個人会員は複数部門に属して効率的な活動を行っています。

支援内容として上記企業・団体に対して、企業支援では特許出願・調査、HP/IT支援、業務支援など、環境事業では各種マネジメント支援や審査など、海外支援では米軍入札支援関連・企業の技術文書の翻訳や通訳などを実施し収益をあげています。新しい公共では補助金申請やセミナー開催・相談室の企画、児童向けエコ教室・理科教室の開催など、産官学連携では大学と企業との橋渡しを模索して研究機関への見学会の実施など、広報は会報誌の発行とホー



理事長 木下 武

ムページの運営管理を行い当会活動を広くPRしています。

またNPOの特質上、会員間の交流が疎になる問題の対策として、交流会の定期的な開催、趣味の会（ゴルフ、旅行など）を実施しています。最近では法人会員を含む有志8名で観光とベトナム/ハノイの工業団地見学、JETRO訪問、日本語学校の見学を行いました。その体験や見学結果を、昨今話題のベトナム研修生などの対応に役立たせたいと考えています。また、法人会員との交流には情報セキュリティ対策などの出前支援などで積極的に対応したいと考えております。

十二支では最後の亥年を迎え、平成も春には役割を終えて新しい年代へと進みます。当会のシニアは経験豊富な集団ですが猪突猛進にならず、今後を見据えて末永く地域の発展に寄与して行けるよう今後も精一杯努めるつもりです。今後とも皆様方のご支援とご鞭撻を心からお願い申し上げます。

核の中の亥 物の核心に亥がひそむ

...

いつまで、おとなしくしていることか

(『吉野弘全詩集』「漢字喜遊曲・亥短調」より)



### 【歳時記】寒さ知らず

年が明け、平成の時代もあと数か月となりました。寒さが厳しくなり、皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

小さいころ、私は関東北部にある日光という寒い地域に住んでおりましたので、冬という雪遊びを思い出します。雪が降るとうれしくて、友達とよく雪合戦や雪だるま作りをして遊んでいました。当時は今のようなダウンジャケットやヒートテックなどという暖かなウェアなどなく、それこそあるものをいっばい着込んで、顔をまっかたしながら、夕方まで遊んでいました。その頃はあまり寒いと感じず、いつも鼻水をたらし、手も霜焼けだらけというありさまでしたが、寒さなど、へっちゃらでした。こういう経験があったせいでしょうか、学生時代はスキーに夢中になり、毎年晩秋になると早く冬が来て雪が降らないかと、いつも学業はそっちのけで天気予報にかじりついていました。夏でも雪を求めて月山に行き夏スキーを楽しんだり、はては近くに人工雪のゲレンデができたと聞けば通ったりと、年中雪を追い続けていた気がします。

雪国で暮らす人々は、冬は毎日毎日雪が降り、これでもかと言うほど雪が降り、本当に辛抱強く我慢強い人たちだと思えますが、昔の私は我慢強かったのかというと、けつして我慢強くなかなかなく、単に寒さ知らずだったようです。いつから寒さがつらくなったかと思うと、寒い時の雪遊びが楽しめなくなつてからでしょうか。

今では冬の寒さは身に応え、あれほど恋焦がれていた雪も見るのもいやという感じで、たまに雪が降ると外にも出ないで、家の中で丸まっています。「♪犬(子供の頃)は喜び、庭駆け回り、猫(年寄になつて)は炬燵で丸くなる♪」ですね。さて、これから雪遊びがまたできたら、寒さ知らずになれぬか・・・。なかなか炬燵から出られそうにありません。(徹)



## ■□ NPO 法人設立 15 周年記念に寄せて

### 設立 15 周年を迎えて

この度は設立15周年、誠におめでとうございます。また日頃より横須賀市の産業振興施策に関し、多大なるご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて本市は、明治以降は旧海軍の軍港都市として、戦後は造船や自動車等の輸送用機械産業を中心に発展してきました。平成に入ってからバブルの崩壊もあり、主要産業である製造業の低迷に合わせ、本市の経済も元気のない様子を見えています。

全国的にはリーマンショックや東日本大震災を乗り越え、近年は景気が上向きという声も聞かれますが、本市の中小企業の方々の声を聞くと、必ずしも良い状況にはなっていません。また、人口減少や高齢化に伴うさまざまな課題が表面化し、市民が将来に対する不安や閉そく感を抱く状況も続いていました。

私は、このような状況を転換し、市民が将来に対して希望や期待感を持つことのできるまちにするため、「横須賀再興プラン」を策定し、「横須賀復活」に向けた施策を展開しています。

特に、本市の地域経済の基盤は中小企業が支えており、その活性化なくして横須賀経済の再興はありえません。このプラ

横須賀市  
市長 上地 克明



ンの中でも、「経済・産業の再興」を取り組みの柱の一つに掲げ、中小企業等の再興支援の取り組みを進めています。

また、私が議員時代に提案した「横須賀市中小企業振興基本条例」と、条例に基づき策定された「横須賀市中小企業振興プラン」には、やる気のある中小企業に少しでも寄り添っていきたいという、私の想いが込められています。現在は第二次計画期間に入り、事業承継への支援や、人手不足の解消といった視点を追加しました。

産業クラスター研究会におかれましては、我々行政を始め、商工会議所や大学などの機関と連携して、さまざまな中小企業支援を実施されてきました。このように貴会が市内に拠点を持って活動されていることは、市内中小企業や私たちにとって、大変意義深いことだと考えています。

今後も引き続き、市内中小企業の発展に、共にご尽力をお願いするとともに、貴会のますますのご活躍とご発展を祈念し、結びとさせていただきます。

### 15 周年 おめでとうございます

『クラスター』?…この言葉に出会ったのは、25 年前、まちづくりの仕事に就いた時です。建物や道路、空き地など都市の構成要素を相互に関連させて一つの集合体としてとらえて配置するというようなことだったと記憶しています。ぶどう一粒一粒が美味しいのはもちろん、一房としての価値に着目! ですね。『NPO』にも出会いました。アメリカの話として。地域は自分たちの手でつくらなければ! という精神、公益はそこに暮らす住民自らがつくるものとの意識が日本とは異なり、規制緩和で参入を促し認証制度で後押しすることで、まちづくりが進んでいることを学びました。

20 年前、阪神淡路大震災でのボランティアや団体の活躍が契機となって、市民が公益活動をしやすい NPO 法が、政府ではなく市民団体と国会議員の力で行われた画期的なできごとは、皆様の記憶にも鮮明に残っていることでしょう。

そして、産業クラスター研究会は、その創成期に設立され、さらに、名声や評判、小手先の寄付集めのためではなく、“ミッションと実行力を備えてこそ!” との高い意識で認定を取得

神奈川県政策局政策部  
NPO 協働推進課  
課長 田中 敏子



されました。その後所轄庁を任された神奈川県の方が引き継ぎます。

設立以来、企業・大学・行政の O B の方々が力を合わせて、産業界にふりかかる困難の中にあっても、企業支援や地域経済・産業・文化の活性化に取り組みされてこられたことに、改めて敬意を表します。

県では、多様な主体が協働・連携して地域の課題の解決に取り組む協働型社会の実現を目指していますが、今やパートナーシップは地球規模、SDGs の目標 17! その担い手としても、研究会がますます活躍されることを期待してやみません。

・・・『クラスター』って聞きなれない言葉なのかと思いきや、若者たちは「○○仲間」とか「○○が好きな人たち」という意味でつかっているそうです・・・。



## イノベーション創出支援に向けて (15周年に寄せて)

認定NPO法人産業クラスター研究会(以下産業C研究会)設立15周年、誠におめでとうございます。日本国内では珍しい産業系NPO法人の先駆けとして立上げられてから15年、これまでいろいろ苦労があったと思います。産業C研究会設立当時小職は三浦海岸に住んでいたこともあり、非常に親近感を感じながらも無事に活動が継続していくのか心配しながら見守っていたのを懐かしく思い出します。しかし、その心配は杞憂に終わり、認定NPO法人資格も取得されるなど、地域の産業界の発展に向けて地道にかつ立派に貢献して来られた木下理事長はじめ会員の皆様に改めて敬意を表させていただきます。

最近福祉・介護系を中心に日本でもNPO法人についての認識が高まってきましたが、欧米と同じように産業系NPO法人についても今後重要性が高まることは確実だと思います。そのような状況の中、産業C研究会の皆様に頑張っていたいただきたいのが「イノベーション創出支援」です。

「イノベーション」は日本語では「技術革新」と訳されることが多いようですが、その本質は「新しい顧客価値の創造」であり、「技術革新」はあくまで有力手段の一つにすぎません。す

地方独立行政法人  
神奈川県立産業技術総合研究所  
(略称：KISTEC)

理事長 馬來 義弘



なわち、最も重要なことは、顧客の皆様(支援企業や県民の方々)が真に困っておられることを見出す「潜在ニーズ推察能力」です。会員の皆様のこれまで培ってこられた豊富な経験やノウハウを活かして、この潜在ニーズを顕在化することにより「イノベーション創出支援」に結びつけていただきたいと思えます。

KISTECの基本理念も「イノベーション創出支援」と設定されています。技術開発や事業化支援等が必要になった場合には、KISTECにも声をかけていただき、一緒に「イノベーション創出支援」に貢献できればと考えております。

結びに、産業C研究会が産業系NPO法人のフロントランナーとして、ますます発展されることを祈念し、設立15周年のお祝いのメッセージとさせていただきます。

### NPO法人産業クラスター研究会・15年のあゆみ

平成15年(2003年)8月	任意団体「産業クラスター研究会」創立(企業支援、ホームページなど3事業部会制)	平成24年(2012年)12月	横須賀市指定NPO法人に認定される
平成15年(2003年)9月	ホームページ立ち上げ	平成25年(2013年)4月	小中学校でのエコ教育開始
平成16年(2004年)1月	経済関係の内閣府認証NPO法人となる	平成25年(2013年)6月	会員活性化組織として経営者交流会、絆に生き生きクラブ発足
平成19年(2007年)4月	横浜事務所開設	平成25年(2013年)10月	環境・省エネ事業支援開始
平成19年(2007年)11月～ 平成22年(2010年)3月	横浜市との協働事業「横浜市経済の新たな担い手創生事業」の受託	平成26年(2014年)2月	10周年記念式典
平成20年(2008年)5月	会報誌「ぶどうのささやき」創刊	平成26年(2014年)6月	「第1回 金沢区環境にやさしい活動表彰」を横浜市金沢区より受賞
平成22年(2010年)5月	ホームページのリニューアル(WordPress採用)	平成28年(2016年)7月	認定NPO法人が再認定される
平成22年(2010年)11月	環境事業部会設立	平成29年(2017年)8月	会員活性化組織を改編して経営者交流会に一本化
平成23年(2011年)11月	国税庁認定NPO法人となる	平成30年(2018年)1月	横須賀市指定NPO法人が再指定される
平成24年(2012年)4月	NPO法改正。所轄庁が神奈川県となる	平成30年(2018年)3月	学童向け理科教室を開催(協力:一般社団法人 蔵前工業会 蔵前理科教室ふしぎ不思議(クラリカ))
平成24年(2012年)5月	新しい公共支援部会設立	平成30年(2018年)4月	「いまさら相談室」開設

## NPO 15 年のあゆみと今後の展開



### NPO 活動の現状と今後の展望

副理事長 阿部 昭彦

特定非営利活動促進法（NPO 法）が施行されて、昨年 12 月で 20 年になります。当会も 2004 年 1 月に内閣府認証 NPO 法人を取得し、2011 年 11 月にはさらに国税庁の認定 NPO 法人となりました。2012 年の NPO 法改正により所轄庁が神奈川県に移管され、2012 年 12 月に横須賀市指定 NPO 法人を取得し、1 月に NPO 法人として 15 年を迎えました。全国の NPO 法人数は 51,745（2018 年 9 月 30 日現在）、認定 NPO 法人は 1,096（神奈川県 44、横浜市 52）です。

当会の NPO 活動の 15 年を振り返りながら今後の展望を記します。

### 15 年の NPO 活動を振り返って

全国の NPO 活動は定着しつつも順風満帆ではなく、多くの課題と問題を抱えています。活動・運営上の最たる問題は、「組織力」がないことが指摘されています。これまでの 20 年間で 15,000 余の NPO 法人が消滅しているといわれています。NPO 法人は行政や企業では成しえないさまざまな社会の課題解決に向けて、公益活動、社会貢献活動を組織的、継続的に行う民間の組織体です。その社会の課題解決には、①「組織力」、②「共感力」、③「課題解決力」の 3 つの力が必要です。当会の 15 年を振り返ってみますと「産業型 NPO」として「組織力」が強くなってきています。つまり、スタッフ（非収益部門）と現場（収益部門）の役割分担が明確で、実施と管理力に強さがあると思われれます。

その「組織力の強さ」として、一つ目、NPO 法の遵守、財務・会計の管理、などが堅実・確実に行われている「事務方力」があること。二つ目、シニアとしての経験と体験からの知識、見識、スキルなどを現状の社会・経済情勢を見ながら、その場に相応しい経営支援を実践する「課題解決力」を保持していること。三つ目、議論は徹底的にするが、決定事項は「共感力（他人と同じような気持ちを分かち合うことがで

きる力）」をもって目標に向かうこと。四つ目、寄付金は少ないが、対価収入による財務体質の健全化も持続的組織運営の大きな支えとなっています。総括しますと、この 15 年は NPO 法人として平均点以上の活動ができているのではないかと思います。これも、中小企業・行政・関連団体のご支援と会員相互の協力による賜物と考えます。

### 今後の展望について

これまでは、「ISO（国際標準）や EA21（環境）認証制度」「CSR（企業の社会的責任）認証制度」「情報セキュリティ認証制度」「第三者評価制度評価員」など時勢のニーズに合った支援をしてきました。その支援活動の実績は一定の成果があったと考えています。

これらを継続しつつ、今後は、「新しい公共活動」を増強することであると考えます。その実現には、現在、世界中の話題となっている、国連が採択した「SDGs（Sustainable Development Goals）」（持続可能な開発目標）を取り上げて活動することだと思えます。

これは 2016 年にスタートし、2030 年達成目標の持続可能な世界を実現するための 17 の分野・目標（貧困をなくす、人々に保健と福祉を、エネルギーをみんなに、など）から構成され地球上の誰一人として取り残さない国際目標です。日本も積極的に取り組んでいます。国も行政も取り組みますが、この目標達成には世界の NPO の活躍が期待されています。当会も支援する地域社会や中小企業に、いくつかの分野・目標を選択してやれることから実行して、社会・経済の課題解決の支援基盤づくりを今年から 3 年間（ホップ、ステップ、ジャンプ）展開し、NPO 法人としてこれまでも増しての社会貢献活動を展望しています。



## 会の運営と管理

事務局 佐々木 興吉

当会は地域経済の活性化と地域社会への貢献を目的として活動しています。達成するための一つの形として地域中小企業と企業・官庁のOB・OGが会員となり、中小企業支援や公共支援活動を展開しています。

当会も最初から今の状態にあったわけではありません。年を重ねるごとに改善してきたと思います。15年の当会の歩みを振り返りながら「会の運営と管理」ということを考えてみます。

組織・団体にはその創生期、発展期、安定期と3段階あると思います。それぞれの期間は当会の場合、大体5年くらいではないでしょうか。創生期には独善的なリーダーがかなり強引に会を運営するということがあります。当会もそうでした。しかしそれは長続きしません。会が健全に発展していくためには民主的な運営、自由な議論、適正、公正なルールが不可欠です。会の設立目的、活動内容、役割分担の共有化と総務・会計管理の適正化は先ず確立すべきところですが。財務基盤の設計も会を長続きさせる大きな要因です。ルールというのは当会の場合 定款と会の運営規定です。それらの構築は、現役時代の経験と実績をもとに理解と協力も進み、比較的容易でした。些細なことですが当初は会議で議論がよく空転しました。会発足後2～3年して皆さんの共感を得て議事録を取るようになってからは、議事録は備忘録ともなり議論や協議の堂々巡りを防止し、決定事項を行動に展開することに繋がりました。

次の発展期には何か目標となる大きな事業の展開や獲得が望まれます。幸いこの時期に当会は認定、指定の資格を得て行政の比較的大きな事業を受託することができ、活動を軌道に乗せることができました。目標があったということです。

会員同士のコミュニケーションの場が必要とされ内外に向け情報を発信するということが重要となってくるのもこの時期です。運営と管理を民主的

に行うためには情報は会員の皆さんと共有する。その中でホームページにWordPress(随時書込み方式)を採用し情報発信に努めたことは民主的な会の運営に大きく貢献してきたと思います。

安定期には、中小企業の皆さまが置かれている環境と同様に会員の高齢化対策とBCP(事業継続計画)の展開です。この時期には、活動がマンネリ化していないか、さらなる発展や社会貢献を高めていくにはどうすればよいかを考える時間でもあります。当会の運営と管理は決して万全とはいえません。個人会員の現役時代の業種や職種が違い、NPO活動に参加している個々の考えも違う中で、当会がそれなりに継続してきたのはそれぞれの考えを認め合う、ということ聞こえはいいが、無理に考えを統合しないことでありました。今後もそのようなゆるやかな連帯ということになるのでしょうか。皆さんに聞いてみたことがないので分かりませんが。ただし、民主的な運営と自由な議論とルールを守るということは最低限継続していかなければならないことと言えます。

日本を代表する一流企業の製品検査結果の不適切処理など相次ぐ不祥事、スポーツ会の権威主義。これらは政治におけるエコひいき、情報の操作、あったことをなかったことにし それでいいとする立居振る舞いと無関係ではないでしょう。組織の発展の中で正調なガバナンスとコンプライアンスをどう担保するか。いま組織の中で問われているのではないのでしょうか。

事務所への道の途中のある所に「今月のことば」的な言葉が書かれています。今月は、正義の反対は悪なんかじゃないんだ。正義の反対は「また別の正義」なんだ(クレヨンしんちゃん)。う～ん・・・どう解釈するか。



## 中小企業支援について心がけていること

環境事業部会

金子 賢一、樋谷 祐一

定年後いくつかの中小企業でコンサルタントを行い、現役時代の知識・経験が役立つことを体験しました。産業クラスター研究会に入会したのもその経験を活かし、お役に立つことがあればお役に立ちたいとの思いからです。支援に当たって大切にしていることをまとめてみました。

### 1) 誠意をもって尽くすことで、信頼関係を築くこと

ビジネスの基本、例えば約束・守秘義務は守ること。上から目線ではなく、同じ目線で誠実に課題や問題に向き合い、その本質はどこにあるかをよく把握すること。問題の解決に当たっては、薄皮を一枚いちまい重ねるようにじっくり時間をかけて「誠意をもって尽くす」こと。企業のトップが考える経営計画や方針に沿ってよく話を聞き、出しゃばらず相談にのること。よき相談相手になり、企業の将来を左右するパートナーとしての役割を果たすこと。そういうプロセスを通じて信頼関係が築かれると考えます。信頼関係が築かれて、はじめて本音の議論ができるようになり、さらに効果的な支援ができるようになると考えています。

### 2) 時・場所・環境により支援の対応方法を変える

中小企業でも 100 人を超える企業ではスタッフが何人かいて、コンサル内容は、アドバイスやヒントの提供で済む場合が多いが、中規模ないし小規模企業の場合には、スタッフは業務多忙で、課題解決に取り組む十分な時間が取れないことが多いと思われます。支援はコンサルティングのみということではなく、場合によっては実務の支援が必要になることもあります。企業の状況で柔軟な対応が求められます。

また問題解決に当たっては、あるべき姿、ありたい姿は描きつつ、またレベル・アップも心がけつつも、その企業で取り組める適切な方法・手法を選ぶことが必要で、かけ離れた方法では問題解決につながら

ないと考えます。

### 3) 学ぶ姿勢と努力があれば、未経験であった業務も支援対象になる

環境事業部会では、ISO マネジメント・システム関連業務や印刷工業組合の CSR（企業の社会的責任）審査・情報セキュリティ・マネジメントシステム審査等を担当しました。CSR 審査や情報セキュリティ・マネジメントシステム審査は未経験の業務でした。ISO マネジメントシステム審査員の経験が助けになっていますが、未経験分野の仕事は、自分自身新たに勉強し、部会員同士での研鑽、外部研修にも参加して、支援対象となった業務です。世の中の変化は早いので、陳腐化した知識のリフレッシュや最近の知識を学びながらの支援の姿勢が求められます。また新しい知識の習得や体験を積むこと、現場（現実の企業の動き）を見ることができるとは喜びや楽しみでもあります。

### 4) 人づくり（人材育成）への思い

特に中・小規模企業（100 人以下）で痛切に感じること、人材の確保・育成の難しさです。業務多忙で、明日のことより、まず今日の仕事を片付けることに力を注がざるを得ないのが実状と思われれます。計画的に OJT（仕事を通じた人材育成）あるいは OffJT（仕事を離れた場で座学や集合研修を通じた人材育成）に時間を割くことが難しいのが実態に見えます。また適当な先生役を探すのも易しくはないことです。企業に望むことは各企業の特徴・強みをさらに伸ばし、それを生かす人づくりです。問題を解決できるだけでなく、日常の業務から課題を提起し、自発的に行動できる人づくりです。企業で働く人たちの成長があって、企業の発展があると考えます。産業クラスター研究会には、経験豊富なシニアが揃っています。人づくりの面でも、もっとシニアの活用をご検討ください。





## 新しい公共支援活動 「一歩ずつ進みます！」

新しい公共支援部会 加藤 幹雄

平成22年に当時の民主党政権が特命担当大臣を任命し、「新しい公共」を国家戦略の柱として日本社会の目指すべき方向やそれを実現させる制度・政策の在り方などについて議論され、その後交代した自民党政権においても、その取り組みは引き継がれ進められてきました。そのような方向性を踏まえて、当会も平成24年に「新しい公共支援部会」を新設して今日に至っています。

もともとわが国には、消防団や自治会活動などによる地域コミュニティの運営は古くから潜在的に機能していて、それを中心になり立っていたところがありました。国際社会になるに従って省力化や機能性などが優先され、良い意味の日本人の潜在能力が薄らいで「新しい公共」という国家戦略として取り上げないと進めない状況が生まれてきていると考えられます。そのような状況の中で、NPOとしての「新しい公共」をどう推し進めたらよいか模索しながら、地元の中企業・小規模企業や一般市民向けの講演会やセミナーなどを開催して地域の活性化に努めてきましたが、目立った成果を上げるまでには至っていません。地域の皆様の力になるような事業は何なのか、未だにはっきりと定まらないのが現状です。

特に当会は全国的にまだ少ない認定NPOを取得しておりますので、広く地域住民の方々に信頼される団体になるべく努力しなければいけません。それに、どのような事業を推し進めていけば地域の力になれるのか、いろいろと試行しているところです。そこで、一般市民の方々を対象にした、いまさら聞きにくい単純なことの相談を受ける「いまさら・相談室」を横須賀市立市民活動サポートセンター内において毎月開催していますが、まだ認知度が低くご相談に来られる方はボツボツです。

部会としてスタートしてから、すでに数年が過ぎていますので、ぐずぐずしているわけにはいきませ



いまさら・相談室

ん。これまでの講演会やセミナーなどのメニューの外に、三浦半島地域の中小企業・小規模企業、そして一般住民の方々の力になって地域の活性化を図るため、公共団体や公益団体の協力をいただきながら、皆様に親しまれ頼られる事業を創設して、地元で認められる活動をしたと思います。

これまでも横須賀・三浦地域県政総合センターの協力をいただいて、毎年2月の「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間」には「見せよう！中小企業・小規模企業の力」をテーマにしたセミナーを開催しています。そうした事業を進めることにより、地元で適合した「新しい公共」の形を作って地域に貢献できる事業部会として、認定NPOの中核をなす存在になるように一歩一歩進む努力をしていきたいと考えております。



神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進セミナー



## 法人会員の事業活動に対する感想・ご意見

### 感想と意見

産業クラスター研究会設立 15 周年おめでとうございます。  
衣笠の小さな集会場で当会の発足準備委員会が開かれ、出席させていただいてからもう 15 年も経ったのですね、感慨深いものがあります。

各界で活躍された方々が地域の中小企業や市民のためにそれぞれの知識や経験を生かして企業支援や地域の活性化を行うというユニークな NPO として発足し、地道に活動を続け発展してきたことに敬意と感謝を表したいと思います。

当会の特徴は各分野の経験豊富な個人会員を主体として、それに地域の中小企業主等が法人会員として加わり両者の協力で運営されていることで、ややもすれば「与える側」と「受け取る側」になりがちな活動が相互に補完するような関係となっていて、それが 15 年もの間活動が持続し、発展してきた秘訣になっているものと思います。

私は当会の理事も拝命を受け、理事会にも参加させていただいていますが、毎回個人会員の皆様が地域のいろいろな課題について真摯に、一生懸命に議論していることに感銘を受



副理事長 富野 養二郎 (法人会員)  
(株式会社ヘリオス 取締役会長)

けています。

これに対し法人会員側と言えば中小企業の宿命とも言うべき人材の不足やオーナーが社業に追われることが多いこともあって必ずしも当会の活動に十分な協力や参画ができていないきらいがあるように感じており、申し訳ないと思っています。

法人会員の当会への事業参画については幾度か調査や議論が行われてきてはいますが、発足 15 周年を機に特に法人会員側の自戒も含め今一度更なる発展のためにお互いに議論を深めて行ければと念じております。

最後になりますが当会が次の 20 周年を目指してますます発展することを祈念いたします。

### 感想と意見

私は平成 22 年、前理事長古川氏のと看、魚藍亭だったと思いますが、「懇親会があるから参加して欲しい」と市議会議員の勧めで参加し会員になりました。その頃はどのような組織が分からず、会費を納めればいいのかと軽い気持ちでした。

その後、木下理事長になり、自宅が近くということで急に親近感がでて、法人会員が少なく、行事の参加者が少ないことを伺い、ある会社を会員に誘いました。しかし、私のフォローが足りず、1 年で退会させてしまいました。

#### 問題点として

- 私が積極的にクラスターの行事に参加していなかった。
- 私がクラスター会員との面識が少なく、その勧誘した会社への紹介ができていなかった。

#### 改善策として

- 私自身が率先してクラスターの行事に参加する。
- 私自身で、行事の企画を立案し積極的に提案する。

#### 提案・要望

- 法人会員の皆様方は、小さいこと、大きいことでも、何でもよいですから、個人会員の皆様の優れた技術などを遠慮なく活用して欲しいと思います。
- 会員同士のコミュニケーション(飲みニケーション)を



理事 本田 徹 (法人会員)  
(株式会社ハイ測器 代表取締役社長)

図るため、以前行っていた全会員を対象に全員集会(クラスタークラブ)を年 2 回 5 月、10 月頃に開催する(年 1 回でも可)。

- 法人会員の中には土曜日にも出勤するところがあり、平日の行事などは参加できないので考慮する必要がある。
- 法人会員に、どのような行事であれば参加していただけるか? アンケートを実施する。
- 認定 NPO 法人産業クラスター研究会の知名度を高めるために、無料おもちゃ修理、ガラ携帯の電源復活エコ教室、理科教室などを市民サポートセンターで実施する。期日は要相談。
- クラスターのクラブ化を推進する。旅行会、ゴルフ愛好会、ハイキング、BBQ、写真撮影会などの責任者を選任し、広く法人会員の参加を促す。

## 個人会員の活躍

木下理事長を筆頭に個人会員の皆様方は、各々の専門分野での知識、技術、技能、経験など卓越した集団です。私が特許出願をしたいと相談したとき、直ぐに対応してもらえ、格

安にて取得することができました。

当会の法人会員ともども個人会員のますますのご活躍を期待しています。

## 感想と意見

産業クラスター研究会、設立15周年おめでとうございます。

早いもので、法人会員として入会させていただき早15年、感慨深いものがあります。

私が産業クラスター研究会に興味をもったのは、個人会員の方々が、それぞれの分野で活躍された経験、知識を生かし地域社会の市民、中小企業、等々を支援し、活性化を図るため産業クラスター研究会がNPO法人として発足されたことでした。

個人会員の多くの方はサラリーマンを経験し定年後の新たな活動であったと思われます。

実際に活動が始まって驚いたことは、多くの分野に、それぞれ専門的知識を持ったメンバーが存在することでした。私は入会后、理事の役をいただき理事会にも出席させていただきましたが、個人会員の皆様が真剣に活動に対する課題、等々を議論されていることを目のあたりにして、これが産業クラ

## 理事 濱田 徹 (法人会員)

(有限会社湘南安全硝子 代表取締役会長)



スター研究会の発展の基本であることを認識いたしました。

このような個人会員の活動に対し、法人会員の自分はどうの行動をしたらよいのか迷い、そして考えたすえに出した結論は、自分には個人会員の皆さんのような活動能力もないため、産業クラスター研究会をできる限り応援することが法人会員としての役割と認識し、これからも微力ながら末永く応援させていただくことをお約束させていただくと同時に産業クラスター研究会が次の20周年に向かって、ますます発展していくことを祈念してご挨拶とさせていただきます。

## 事務局からのお知らせ

- ① 平成30年7月13日 見学バスツアーを実施。神奈川県立産業技術総合研究所と(株)アルバックを見学。多数の参加者があり大好評でした。訪問記は当会Webサイトをご覧ください。
- ② 平成30年8月15日 横須賀市民活動サポートセンター主催の「夏のボラ市」イベントに参加し小学生向けに「いまさら相談室」を開催。なお、毎月第3水曜日に同サポートセンターにおいて開催しておりますのでご利用ください。
- ③ 平成30年9月26日 産業交流プラザにて中小企業、市民活動団体、NPO法人、一般個人向けに情報セキュリティセミナーを開催。
- ④ 平成30年10月20日「金沢まつり」、11月3日～4日「よこすか産業まつり2018」に出展参加。両まつりとも大盛況でした。詳細は当会Webサイトをご覧ください。
- ⑤ 平成30年11月10日 横浜市立西柴小学校で5年生3クラス105名に「エコ教育」を開催。
- ⑥ 平成30年11月16日～21日 有志にてベトナムハノイ旅行。法人会員、個人会員8名が参加。法人会員(株)菱和工業の現地工場見学をはじめ現地NPOと交流し有意義な体験となった。詳細は当会Webサイトをご覧ください。
- ⑦ 平成30年12月7日 平成30年度第2回理事会を開催。平成30年度上期の活動実績の報告と平成30年度下期活動予定の報告を行いました。審議事項として15周年記念式の内容が承認されました。その後法人会員の従業員と会員をまじえて本年第2回目の会員集会として恒例のボウリング大会と忘年会を盛大に行いました。
- ⑧ 当会が内閣府に認証されて以来平成31年1月14日で15年になります。既にご案内の通り、平成31年2月8日、15周年記念行事としてメルキュールホテル横須賀にて講演会と懇親会を行います。万象繰り合わせの上ご参加ください。
- ⑨ 平成31年2月は「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進強調月間」です。2月27日14:00から横須賀市総合福祉会館において、中小企業の皆さま向けに講演会「見せよう！中小企業・小規模企業の力」を行いますのでご参加ください。内容は別途ご案内します。
- ⑩ 訃報 個人会員 平野和夫さんが平成30年11月に亡くなりました。謹んでご冥福をお祈りします。

(事務局 佐々木 興吉)

## 歴史散歩

### 土方歳三とともに函館に散ったラストサムライ“中島三郎助”

個人会員 堀込 孝繁

#### 今年が戊辰戦争終結 150 年

今年(2019年)は明治新政府軍と旧幕府軍が戦った戊辰戦争が終結して150年です。昨年は“明治(維新)150年”が喧伝されましたが、鳥羽・伏見の戦いから始まり、国内各地での戦争を経て函館までの足掛け2年に亘る内戦が終わった時が、実質的に明治の始まりと言えます。この最後の戦いで戦死した土方歳三はあまりにも有名ですが、ともに戦死した中島三郎助は浦賀以外ではあまり知られていないと思います。三郎助は最後には“蝦夷共和国”の函館奉行並・砲兵頭並でしたが、元は浦賀奉行所に勤める与力でした。



中島三郎助肖像  
(中島三郎助資料室所蔵)

かつてNHKで歴史秘話ヒストリア「世にも数奇なラストサムライ幕末・いつも“そこ”にいた男中島三郎助」が放送されました。幕末の最初が1853年(嘉永6年)のペリー浦賀来航、最後が1869年(明治2年)の函館戦争とすると、その両方の現場にいて活躍したのが三郎助でした。

三郎助はこの経験を基に技術上の助言を含め幕府に軍艦の建造や海軍の創設を上申し、翌年初の洋式軍艦「鳳凰丸」の建造に大きな貢献をしました。その後も幕府の海軍士官として活躍します。ところで、浦賀奉行所の跡地(西浦賀5丁目)は民間企業の社宅となっていたのですが、最近更地になって横須賀市に寄付されました。遺構は敷地周囲を巡る小さな水路と高さ1mほどの石垣だけが残っています。来年は開設から300周年ということもあり、歴史公園や奉行所復元など、どのように整備するか検討されています。



浦賀奉行所の模型(浦賀文化センター所蔵)

#### 三郎助の最期：函館

新政府軍に追い詰められた旧幕府軍は、軍議で降伏を決めました。しかし、三郎助は長男恒太郎、次男英次郎らとともに討死の道を選びました。享年49歳。新撰組の副長として恨まれていた土方歳三は討死だけが残された道でしたが、三郎助は吉田松陰と面識があり、その紹介で若き日の桂小五郎(木戸孝允)が三郎助宅に下宿して砲術や軍艦建造の知識を学んだこともありました。蝦夷共和国総裁の榎本武揚のように、生きて明治日本で活躍することもできたはずですが、なぜ筋を通したのでしょうか。中島父子が戦死した千代ヶ岡陣屋跡は函館市中島町となり、毎年5月に碑前祭が、また浦賀では毎年1月に三郎助祭りが行われます。俳人でもあった三郎助は辞世の句を二つ残しました。

ほととぎす われも血を吐く 思い哉  
われもまた 死土と呼ばれん 白牡丹

#### 来年は浦賀奉行所開設 300 周年

ここで、三郎助が勤めていた浦賀奉行所について触れます。ペリー来航の133年前、1720年(享保2年)といえば八代将軍吉宗の時代です。当時相模の国で小田原に次いで繁栄していた浦賀に廻船の積荷検査などを担う奉行所が下田から移されました。その後、異国船が日本近海に頻りに現われるようになり、江戸の入り口に位置する浦賀奉行所は海上防備の役目が増えました。ペリー来航時、三郎助は一介の与力でありながら“副奉行”と称して乗船し、船内の状況を細かく観察したため、スパイのようだとアメリカの記録に残っています。しかし、三



## トピックス

## 金沢まつり・よこすか産業まつりの出展参加報告

当会は、今年も関係中小企業・団体と協働して金沢まつりとよこすか産業まつりに出展しました。

金沢まつりは、10月20日に横浜市金沢区の海の公園で開催され、当会のブースでは、法人会員「珈琲豆&癒し処ちろりや」のコーヒーおよびゼリー等の販売、一般社団法人「里海イニシアティブ」のおつまみ「コンバット」(金沢漁港養



金沢まつり

殖の昆布を使った菓子)などの販売、とともに当会のPRに努めました。

天候不順でしたが、20万人の来場者があり、当会のブースも大盛況でした。

また、よこすか産業まつりは11月3日、4日に横須賀市三笠公園で開催され、当会のブースでは、法人会員「珈琲豆&癒し処ちろりや」のコーヒーおよびゼリー等の販売、法人会員「(株)小山防災」などの防災教室、理科教室(協力:一般社団法人「蔵前工業会蔵前理科教室ふしぎ不思議(クラリカ)」)の開催、とともに



よこすか産業まつり 理科教室

当会のPRに努めました。

天候不順でしたが、多数の来場者で賑わいました。当会のブースは音楽噴水池前の広場で場所もよく、大盛況でした。特に、理科教室は、就学前の児童や小学生が多数参加し、関心をもっていたことに喜びと希望を感じます。

最後に、出展準備、祭り当日の対応・後片付け等に関して、関係者のご協力に感謝します。

(広報部会 新井 全勝)

## ベトナムの観光旅行が有意義な視察旅行になりました

当会法人会員でベトナムの首都ハノイに工場を持ち、活動されている菱和工業(株)大村社長のお誘いで11月16日(金)から21日(水)までの5泊6日の短期間ですが、有志8名でベトナムの首都ハノイに、観光旅行に出かけました。大村社長に企画をお願いしたところ、土日にはハロン湾とハノイ

市内を観光しましたが、その後は菱和ハノイ、地元企業、工業団地、JETRO、VASI(産業支援協会)、NPO、日本語学校など視察・交流し、連日視察調査に変身して有意義な産業事情視察旅行になりました。

詳細についてはホームページの報告書を参照下さい。

(環境事業部会 樋谷 祐一)

## 羅針盤

結婚15周年は「水晶婚式」(日本も、仏国も、英国も)。夫婦の間には阿吽(あうん)の呼吸ともいえる揺るぎない信頼関係が育ってくるころ。重ねてきた年月を思わせるすてきな意味がある。水晶は無色透明で15周年を迎えた夫婦のクリアで曇りのない信頼関係の象徴とされている。▼なぜか、何ごとともフランク・クリアで、阿吽の呼吸で業務が遂行され、確固たる組織力を築きつつある産業クラスター研究会の15周年と重なる。▼水晶の共振(共鳴)特性を利用した水晶振動子は、携帯電話・スマホや電子時計や通信機器に欠かすことのできない主要電子部品である。▼「共鳴」とは、ブランド用語では、「顧客に対して適切で意味ある便益を提供することで得られる連想のこと」をいう。NPO法人として、この節目を真摯に総括し、新たな思いで、「水晶の共鳴」のごとく、地域社会や中小企業の支援に「先見の明をもつ」なくてはならないよき羅針盤を目指したい。本年もこの羅針盤を宜しく願います。(昭)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax: 046-847-6355 E-mail: yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先: 046-847-6355

E-mail: yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人: 木下 武